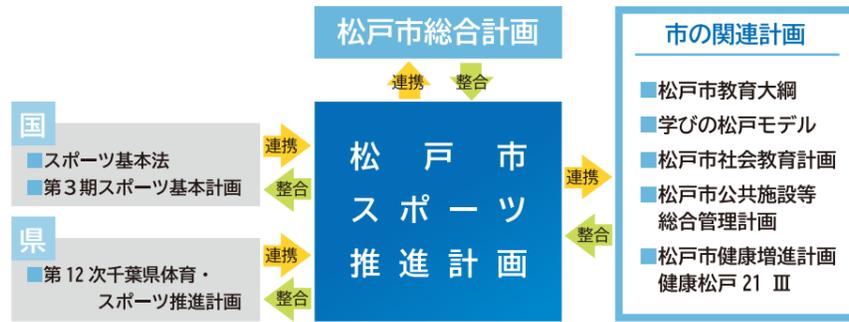


松戸市スポーツ推進計画（概要）

本計画の位置づけ

この計画は、「松戸市総合計画」、2030年に向けた松戸市教育委員会の指針「学びの松戸モデル」との整合を図ると共に、その他の関連する行政部門の計画にも連携した内容とします。また、スポーツ振興の目的を市民の健康増進や高齢者の生きがいづくりにとどまらず障害者の社会参加などの視点からとらえることとします。



計画期間

本計画の期間は、「松戸市総合計画」の期間に準じ、令和4年度（2022年）から令和11年度（2029年）までの8年間とします。

本計画におけるスポーツとは

野球やサッカーなど一定のルールに基づき競技として行うものに限定するものだけでなく、身体を動かす事を意識して行う散歩や体操、レクリエーションなども含まれます。また、従来のスポーツに加えて、インディアカなどのニュースポーツ、BMXなどのアーバンスポーツも含まれます。

スポーツ推進の課題

課題① 市民のスポーツ推進

特に、男女とも30歳代でのスポーツ実施率が低くなっており、仕事や家事、育児が忙しく、時間がないことが理由として多く挙げられています。また、市民、子どもともに一定数の無関心層があり、そうした層に対する働きかけも求められます。さらに、年齢や性別、障害の有無等にかかわらず、全ての人々がスポーツを通じて、地域社会との絆を深めることは、健康長寿社会の実現とともに共生社会の実現に向けて重要であり、国では障害者スポーツの振興を重点施策に盛り込んでいることから、障害者スポーツの推進も重要になります。

課題② 身近なスポーツ環境の整備

松戸市の公共スポーツ施設の整備水準は低く、老朽化が進んでいる状況です。アーバンスポーツや地域のニーズを踏まえるとともに、中核施設、地域拠点施設、地域スポーツ施設は計画的な環境整備が求められます。

課題③ 人材・組織の育成、連携・協働

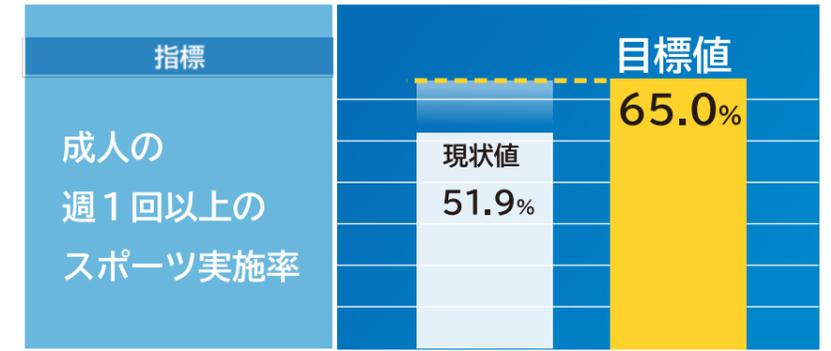
スポーツ指導者やスポーツ推進を担う人材の育成を進めるとともに、学校の部活動との連携の充実など、連携・協働を図ることで、市の抱える様々な資源を有効に活用していくことが必要になります。

課題④ スポーツを通じた連携・協働と東京2020大会レガシーの継承

国の「第3期スポーツ基本計画」においてスポーツの枠を超えて異分野と積極的に連携・協働することの必要性が指摘されていることから、松戸市においても多様な主体の連携・協働によるスポーツの機会創出が求められます。また、令和3年度に開催された東京2020大会と大会開催までの取組の成果をレガシーとして活用していくことで、将来にわたり“やさシティまつど”の魅力を高めることが求められます。

数値目標

松戸市民のスポーツ実施率※1は51.9%となっており、半数以上の市民が週に1日以上何らかのスポーツに取り組んでいる状況が伺えますが、国のスポーツ実施率を下回る結果となっています。成人の週1回以上のスポーツ実施率を65%とすることを目標として、市民のスポーツ活動の活性化に向けた取組を推進していきます。



基本理念と施策の体系

基本理念	基本目標	施策	主な取組
だれもが 一生涯 スポーツに 親しめる まち まつど	基本目標1 スポーツを楽しむ きっかけの充実	(1) ライフステージ・ライフスタイルに応じたスポーツ活動の支援 (2) 地域におけるスポーツ活動の支援	○ 各種事業の開催 ○ 子どものスポーツ機会の確保 ○ 地域スポーツ振興事業 ○ スポーツ観戦の機会の充実
	基本目標2 身近なスポーツの 場の整備と 効果的な運用	(1) スポーツ施設等の適正な環境整備と活用 (2) スポーツイベントの開催支援と交流の拡大 (3) スポーツ情報の発信	○ 計画的な施設整備の推進 ○ スポーツ施設の適正な管理運営 ○ 身近な場におけるスポーツ活動の推進 ○ 松戸市国際スポーツ交流事業 ○ 地区開催の各種大会の開催・協力 ○ スポーツ・レクリエーション大会等の開催支援 ○ スポーツ施設に関する情報発信 ○ 市ゆかりのアスリートに関する情報発信
	基本目標3 スポーツをささえる 人材・組織の育成と 連携・協働	(1) スポーツ指導者の育成・活用 (2) トップアスリートの支援 (3) スポーツ活動支援組織等の充実	○ スポーツをささえる人材の育成 ○ 一般財団法人松戸市スポーツ協会の育成指導 ○ 選手、愛好者育成・強化事業の実施 ○ 施設整備による環境づくり ○ スポーツ推進審議会の開催 ○ スポーツ少年団等の活動支援
	基本目標4 スポーツを通じた 連携・協働	(1) スポーツを通じた学校と地域の連携 (2) 民間活力の導入によるスポーツ振興	○ 部活動指導員や外部指導員等の活用 ○ 総合型地域スポーツクラブとの連携 ○ 民間企業と連携したスポーツ教室の実施 ○ トップアスリートとの連携・協働